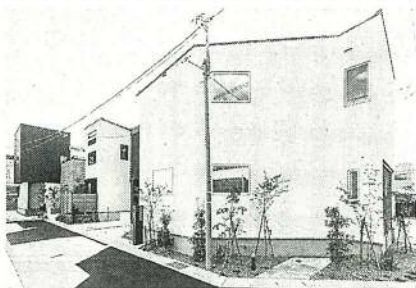


「三者三様」の分譲が好評

ポラスG 南与野で新たな試み

ポラスグループのポラス計に取り組んだという点
タウン開発（埼玉県さいたま市）が同市の南与野エリアで手掛けた、3棟の戸建て分譲「TSUNAGU（ツナグ）南与野」が好評を博し、このほど完売した。同分譲地の特徴は、3棟それぞれを異なる建築デザイナーチームが担当し、各自が個別のコンセプトで設



「ツナグ南与野」3棟の外観

計に取組んだという点だ。通常同社では、一つの分譲地を単独の建築デザイナー（チーム）が担当している。しかし今回はあえて2人組のデザイナーチームを3組設け、事前の相談などは行わずにプランニングを行った。

その結果、1棟ごとに大幅に異なる外観ながら懸念された不調和などもなく、また一方でそれぞれに独自の仕様や内装デザインを持つという、一風変わった分譲地に仕上がった。

「テラスハウス」は2階リビングの長所を生かし、空間の広がりや開放感に力を入れたプラン。「サンクンリビングのある家」は、リビングの床を階段1段分ほど下げて気軽に座れる造りとし、家族や友人などが自然に集まりやすい空間に仕上げた。「木の箱の家」は、家の中心に置いた階段を囲んでリビングとダイニング、キッチンを緩やかにつないだ大胆な設計だ。

価格は4930万〜5280万円（税込）。近隣の建売住宅の相場よりはやや高額なもの、売り出し当初から反響は良好だ。今回の試みについて、同社は「パワービルダーとの差別化」を動機として挙げる。

また企画設計担当デザイナーの一人、百瀬修氏は「同分譲地のエリアは、住まいにこだわりを持ち、コストパフォーマンスにもシビアな人が多い」と話し、地域性に合わせた戦略も語る。

設計課の西尾好弘課長は「3棟というのはチャレンジのしやすい規模で、何か新しいものを生み出せるのでは、という期待をもって実施した企画。今後も年1回程度は行っていきたい」と話した。